

【参考１】ＩＣＴ活用工事及び簡易型ＩＣＴ活用工事

	施工程序	工事成績
簡易型 ＩＣＴ 活用工事 (擁壁工)	【ケース１】①②④⑤を活用する場合 ① ３次元 起工測量 【見積り】 ② ３次元 設計データ 【見積り】 ③ 従来施工 (対象外) ④※１ ３次元 出来形管理 ※２ ⑤ ３次元 データ納品 ※２	創意工夫【施工】で加点（１項目） ☑施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫
	【ケース２】②④⑤を活用する場合 ① 従来測量 (従来率) ② ３次元 設計データ 【見積り】 ③ 従来施工 (対象外) ④※１ ３次元 出来形管理 ※２ ⑤ ３次元 データ納品 ※２	

※１ 受注者は、ＩＣＴ擁壁工の出来形管理については、３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った工事を対象とする。

※２ ３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が共通仮設費率、現場管理費率に補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。

【参考２】 ＩＣＴ活用工事及び簡易型ＩＣＴ活用工事を除く生産性向上に資するＩＣＴ活用工事

次の技術等を活用した場合、生産性向上に資する工事とする。

例）自動追尾トータルステーション、パワーアシストスーツ、情報共有システム（ＡＳＰ）、遠隔臨場、ＡＩ技術、ＶＲ技術、３次元起工測量、

２次元ＭＣ又はＭＧ 等

⇒創意工夫【その他】で加点

☒【生産性向上】 ＩＣＴ活用工事及び簡易型ＩＣＴ活用工事を除く生産性向上に資する取組みが図られている。

【参考３】 創意工夫で加点するための履行確認書類（例）

技術名等	創意工夫等 別添様式1、2の作 成	備考
ＩＣＴ活用工事、簡易型ＩＣＴ活用工事	不要	ICT活用工事計画書、出来形管理書類等でＩＣＴを活用したことが確認できる。
自動追尾トータルステーション	必要	
パワーアシストスーツ	必要	
情報共有システム（ＡＳＰ）	不要	工事打合せ簿等にてＡＳＰを活用していることが確認できる。
遠隔臨場	不要	段階確認記録表等にて遠隔臨場を実施していることが確認できる。
ＡＩ技術	必要	
ＶＲ技術	必要	
３次元起工測量	必要	
２次元ＭＣ又はＭＧ	必要	